

2013年7月29日

公益社団法人 日本糖尿病協会  
サノフィ株式会社

## 平成25年度 日本糖尿病協会「サノフィ賞」受賞者を発表

公益社団法人 日本糖尿病協会（理事長：清野裕、所在地：東京都千代田区、以下「日本糖尿病協会」）とサノフィ株式会社（代表取締役社長：ジェズ・モールドイング、本社：東京都新宿区、以下「サノフィ」）は、本年7月27日（土）、国立京都国際会館（京都市）で開催された第1回 日本糖尿病協会療養指導学術集会において、平成25年度日本糖尿病協会「サノフィ賞」の受賞者の発表と表彰式を行いました。

本年度の日本糖尿病協会「サノフィ賞」受賞者は、下記の方々です。

受賞者	ご所属
豊田 隆謙(とよた たかよし)氏	東北労災病院名誉院長 東北大学名誉教授
堀田 饒(ほった にぎし)氏	中部ろうさい病院名誉院長 名古屋大学名誉教授 前国際糖尿病連合(IDF)副会長

日本糖尿病協会「サノフィ賞」は1997年に「日本糖尿病協会賞」として創設され、2008年よりサノフィが後援を行っています。今年で16回目を迎えた本賞は、日本の糖尿病対策に多大な役割を果たすとともに日本糖尿病協会事業の推進に著明な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者を顕彰しています。詳細は別紙をご覧ください。

日本糖尿病協会の清野裕理事長は、今回の豊田氏、堀田氏の受賞について「お二人の糖尿病に関する優れた調査・研究のご功績を称え、同時に長年にわたり、日本糖尿病協会の啓発活動や国際化に多大なお力添えをいただいたことに深く感謝申し上げます。今後ますますご活躍くださることを祈念いたします」と述べました。

日本糖尿病協会およびサノフィは、糖尿病予防や健康増進へ向けた取り組みを「サノフィ賞」として顕彰することで、受賞者の活動が社会に広く認知され、糖尿病患者さんにとって、より暮らしやすい社会の実現につながることを期待しています。

以上

## 公益社団法人 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する知識の普及啓発、療養指導、糖尿病に関する調査研究、糖尿病治療の標準化や新しい医療導入のための環境整備、国際交流を通じた海外との連携をその理念に掲げ、広く国民の健康増進に寄与することを目的として1961年(昭和36年)に結成されました。患者、医師・歯科医師・コメディカルスタッフ、市民・企業などの連合体として組織された公益社団法人です。現在、約10万5,000人の会員を擁し、都道府県糖尿病協会とともに啓発イベント開催や糖尿病情報誌の発行などを通じて、日本の糖尿病患者のQOL(生活の質)向上に貢献しています。(ホームページ: <http://www.nittokyo.or.jp/> Facebook: <http://www.facebook.com/nittokyo>)

## サノフィについて

サノフィ・グループは、フランス・パリに本社を置きグローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーです。世界100カ国に11万人以上の社員を擁するサノフィは、糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、新生ジェンザイムの7つを成長基盤として、患者さんのニーズにフォーカスした治療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、パリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。

日本においては、約3,000人の社員が、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」をビジョンに、医薬品の開発・製造・販売を行っています。詳細は、<http://www.sanofi.co.jp>をご参照ください。

## サノフィの糖尿病領域への取り組み

サノフィは、日本の糖尿病領域において経口血糖降下剤とインスリン製剤を提供し、各治療段階において糖尿病患者さんに貢献する製薬企業です。経口血糖降下薬の主力製品として、2型糖尿病に使用されるスルホニルウレア系経口血糖降下薬(SU薬)「アマリール<sup>®</sup>」(一般名:グリメピリド)と、1型および2型糖尿病を対象とする持効型溶解インスリンアナログ製剤の「ランタス<sup>®</sup>」(一般名:インスリン グルリジン[遺伝子組換え])および超速効型インスリンアナログ製剤「アピドラ<sup>®</sup>」(一般名:インスリン グルリジン[遺伝子組換え])を提供しています。また、2013年6月28日には、「リクスマリア<sup>®</sup>」(一般名:リキシセナチド)について、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。「リクスマリア<sup>®</sup>」は1日1回投与の食後血糖改善を目指した、本邦初の基礎インスリンとの併用が可能なGLP-1受容体作動薬です。

サノフィは2008年より、日本糖尿病協会の発展に寄与し、顕著な功績をあげた日本糖尿病協会の会員およびその関係者を表彰する、日本糖尿病協会「サノフィ賞」を後援しています。

また、糖尿病の患者さんや一般の方に向けて、糖尿病の情報ウェブサイト「糖尿病がよくわかるDM Town」([www.dm-town.com](http://www.dm-town.com))、「よくわかるインスリン」([www.dm-town.com/insulin/](http://www.dm-town.com/insulin/))を開設して情報提供を行っています。日本糖尿病協会とサノフィが2006年より毎年実施しているHbA1c認知向上運動のイベントについても“DM-TOWN”([www.dm-town.com/hba1c/index2.html](http://www.dm-town.com/hba1c/index2.html))においてご覧いただけます。

<別紙>

## 日本糖尿病協会「サノフィ賞」について

### 1. 平成25年度受賞者

受賞者	受賞理由
とよた たかよし <b>豊田 隆謙氏</b> (76歳) 東北大学名誉教授 東北労災病院 名誉院長 相馬中央病院 名誉院長	日本糖尿病協会副理事長、宮城県支部長などを歴任され、宮城県および東北地方の協会活動を長らく指導されました。また、2011年の東日本大震災以降は、被災地の糖尿病患者の方々への支援活動において多大な功績を残されています。
ほった にぎし <b>堀田 饒氏</b> (76歳) 名古屋大学名誉教授 前 国際糖尿病連合 副会長	長年にわたり、糖尿病における急性・慢性合併症の成因と対策のため尽力され、また日本糖尿病協会の国際委員会が発足された1994年以来、委員として同協会の国際的な活動に貢献されています。



[7月27日 表彰式にて]

左より、 豊田 隆謙氏  
日本糖尿病協会 清野 裕 理事長  
堀田 饒氏

### 2. 日本糖尿病協会「サノフィ賞」概要

本賞は国民の糖尿病予防、健康増進へ向けた取り組みを通して、協会の発展に寄与し、顕著な功績をあげた日本糖尿病協会の会員およびその関係者の方を顕彰する最も権威のある賞の一つです。各理事からの推薦の上、受賞選考委員会での審査、理事会の承認を受けて受賞者を決定します。1997年に「日本糖尿病協会賞」として創設され、2008年よりサノフィ・アベンティス(現サノフィ)の後援に伴い、日本糖尿病協会「サノフィ・アベンティス賞」となりました。さらに、2012年にはサノフィ・アベンティス株式会社の社名変更に伴い、「サノフィ賞」と改称されました。

### 3.過去の日本糖尿病協会「サノフィ賞」受賞者

(年齢は受賞当時)

受賞年	受賞者	受賞理由
平成 24 年度	受賞者なし	
平成 23 年度	武田 倬 (たけだ あきら)氏 67 歳	小児糖尿病患者に対する支援・教育活動や、「さかえ」の編集委員長をはじめとした協会活動への貢献
平成 22 年度	立川 俱子 (たちかわ ともこ)氏 78 歳	日本糖尿病協会鹿児島県支部における全国に先駆けた栄養部会の設立、全国の栄養士への日糖協加入と各支部での栄養部会設立を促したことに始まり、日本糖尿病療養指導士認定機構の設立や、多くの糖尿病患者活動および啓発活動への貢献
平成 21 年度	北村 信一 (きたむら しんいち)氏 82 歳	日本糖尿病協会での活動のみならず、「日本糖尿病療養指導士認定機構」初代理事長として、日本のコメディカルスタッフを育成、患者の療養指導システム化に貢献
平成 20 年度	今野 美代治 (この みよじ)氏 78 歳	岩手県支部長、日本糖尿病協会理事として地域組織の強化や会員増強、講演会等行事開催に貢献
	本橋 義治 (もとはし よしはる)氏 80 歳	東京都支部長、日本糖尿病協会理事として、協会活動の周知、一般への糖尿病の知識啓発等に貢献

以上